

キャンプレポート「森の防災キャンプ」

開催日：平成 30 年 9 月 22 日～23 日 | 場 所：神奈川県立足柄ふれあいの村

◆企画への「おもい」◆

いざという時、近くに避難所がなかったら？避難所が満員で入れなかったら？周りの人たちと協力して小さな避難所を作り、雨風をしのいで生活するためにはどうしたらいいのだろうか？

◆主な活動プログラム◆

1 日目：出会いの集い→コミュニケーションゲーム→炊き出し昼食→災害時に役立つアウトドア体験①

→簡単野外クッキング①→災害時に役立つアウトドア体験②

2 日目：簡単野外クッキング②→テントかまどの片づけ→防災ワークショップ→さよならの集い

活動の様子



始めに、キャンプを通して感じてほしいことなどをお話しました。



地震ダンゴムシ。踊りながら身を守る体勢を学びました。



テント設営。皆さん積極的に参加し、協力して立てていました。



災害時でも、皆で温まってほっとできる足湯を作りました。



簡単野外クッキング。常温で長期保存できる食材を主に使用しました。



コンクリートブロックとトタン板で、簡易的なかまどを作りました。



水を張った足湯に焼いた石を入れてお湯が沸いたら足湯の完成。ゆっくりのんびり浸かりました。



2 日目はお家の中でもすぐにできる対策について、お話を聞きました。



ゲーム「ナマズの学校」楽しみながら防災について考えました。

～参加者の声～（アンケートより抜粋）

（子ども）

・私は、テントを立てるのが難しかったです。でも、きれいにテントが作れたので良かったです。

（大人）

・かまど作り、勉強になりました。

・子どもも喜びやすいゲーム感覚で、頭に入りやすかったです。内容も、身近な物という事で、とても、分かりやすい説明でした。（防災ワークショップ）

《担当者より》

災害はいつどこで起きるか分かりません。被災した時、すぐに行政の支援が受けられれば良いですが、場所によっては孤立してしまうこともあるでしょう。そんな時、周りの人と力を合わせて、限られた資源でどう乗り越えるかを考え、プログラムを構成しました。アウトドアの体験は、周りの人と力を合わせる事、限られた資源を有効に活用することなど、被災時とリンクすることがたくさんあります。アウトドアを楽しみながら、その経験をいざという時にもぜひ役立ててもらえたらと思います。